

ORACLE VIRTUAL DIRECTORY

おもな機能と利点

- LDAPv3準拠
- DSML v2準拠
- LDAPに対応したアプリケーションの迅速な配置
- 既存のインフラ投資を最大限に活用
- 集中管理下において、すべてのID情報を配置
- セキュリティとコンプライアンスを強化
- 同期せずに複数のディレクトリを統合
- 非ディレクトリ・データにLDAPインタフェースを提供
- 複数のデータ・ストアよりデータを一体化し、バーチャル・エントリーを作成
- ディレクトリ情報における、固有のアプリケーションビューを提供
- ディレクトリ・プロキシ
- ディレクトリ・ファイアウォール
- ディレクトリの柔軟性向上
- Microsoft、Oracle、Sun、Novellなど、ベンダー共通のディレクトリ向けアダプタ
- Oracle、Lotus Notes、Microsoft SQL Serverなど、データベースのアダプタ
- LDAPとしてWebサービスを公開

Oracle Virtual Directoryの使用により、ディレクトリ、データベース、およびWebサービスと、あらゆるデータ・ストアからIDデータのリアルタイムな仮想ビューが提供され、ディレクトリ対応のセキュアなアプリケーションを迅速に配置できます。

もう1つのディレクトリの回避

中規模から大規模の組織において、ID情報は複数のディレクトリに存在します。しかし、ほとんどのアプリケーションで通信できるのは、LDAPシングル・インスタンスのみです。Oracle Virtual Directory (OVD) では、ディレクトリ対応のアプリケーションに、仮想のSingle Point Of Contactをシンプルでセキュアな方法によって提供します。OVDは、ダイレクト・データ・アクセスを使用してリアルタイムにディレクトリ・データの問合せを行うため、同期化プロセスを追加する必要がありません。そのため、ポータルまたはシングル・サインオンなどのディレクトリ依存のアプリケーションのための配置時間を、月単位から週もしくは日単位に短縮できます。

既存のリレーショナル・データベースへのLDAPインタフェースの提供

データベースの中にIDデータを保存しない人がいるでしょうか。OVDでは、どんな種類の同期も必要とすることなく、IDデータにLDAPクライアント・アクセスを提供します。

IDデータの統合

OVDを使用して、複数のデータ・ストアに保存されたID属性を結合できます。たとえば、データベースから取得したHR属性を用いて、LDAPディレクトリからユーザー名や電子メールアドレスなどのベース属性を結合できます。また、Windowsのパスワードを利用し、同期させることなく、非Active DirectoryベースのLDAPサーバーにユーザー情報およびグループ情報を保存できます。

コンプライアンスとセキュリティの強化

OVDサーバーは、クライアントとディレクトリ・データ・ストアの間に位置するため、ディレクトリ・ファイアウォールとして機能させることができます。つまり、OVDサーバーによって、ディレクトリ・ストアに対するDoS攻撃のリスクが軽減され、必ず有効なLDAPクエリーのみが渡り、追加のアクセス制御制限が提供されます。OVD管理クライアントは、ディレクトリ監査情報をレビューする機能も提供するため、HIPPAまたはサーベンス・オクスリー法の規制に対する確実な順守に役立ちます。

多数の側面 - 1つのディレクトリ

ディレクトリに対応した複数のアプリケーションを配置すると、アプリケーションは独自のディレクトリ・データ・ビューを必要とします。これには、特定のディレクトリ情報ツリー (DIT) ストラクチャに存在するためにデータを

Oracle Identity Managementに関する製品

Oracle Access Managerは、異機種アプリケーション環境におけるアクセス制御、シングル・サインオン、およびユーザー・プロファイル管理のための重要な機能を実行します。

Oracle Identity Managerは、企業のIDプロビジョニングおよび整合性監視に必要な強力かつ柔軟なソリューションで、ディレクトリ、電子メール、データベース、およびERPといった、企業システムにおけるユーザーの作成、更新、削除を自動化します。

Oracle Identity Federationは、業界唯一であるIDフェデレーション・サーバーを使用して、異なるドメイン間でのシングル・サインオンを可能にします。この機能は完全な内蔵型で、すぐに使用できます。

Oracle Internet Directoryは、LDAP v3に準拠する強固でスケーラブルなディレクトリ・サービスで、Oracle Database 10gプラットフォームの高性能機能が活用できます。

Oracle Virtual Directoryは、データを同期化したり本来の位置から移動したりすることなく、企業の既存ID情報に対して、インターネットと業界で標準となっているLDAPビューおよびXMLビューを提供します。

Oracle Web Services Managerは、ポリシー駆動型のセキュリティ機能と管理機能を、既存または新規のWebサービスに追加する包括的なソリューションです。

Oracle Enterprise Single Sign-Onは、デスクトップ、クライアント・サーバー、カスタムベースおよびホストベースのアプリケーションといった、ユーザーの全エンタープライズ・リソースに対応する、統合されたサインオン機能と認証機能を提供します。

必要とする単純な場合もあれば、ほとんどのディレクトリ・サーバーにあるコア・スキーマ外の、特定の独自の属性を必要とする高度な場合もあります。OVDのビュー機能を利用することによって、OVDのシングル・インスタンスはディレクトリ・データの複数の異なるビューを提供できます。そのため、追加のディレクトリ・サービス(および関連する高可用性と同期の管理などのオーバーヘッド)をインストールする必要なく、既存のインフラストラクチャで投資を最大限に活用できます。

ディレクトリのスケーラビリティの向上

OVDは、2つの方法でディレクトリのスケーラビリティを向上させます。まず、OVDはリクエストをバックエンド・ディレクトリに多重化できるため、バックエンド・ディレクトリの処理能力を最大限に引き出すことができます。

また、LDAPグループ管理の負荷をディレクトリからRDBMSに移すことによって、大規模なグループ管理を改善できます。これは、大規模なグループのレプリケーションと更新が、従来のディレクトリにおいて重大なボトルネックとなるため、非常に有益です。

データが入ってきた場所に関係なく、一貫性のあるLDAPビューを表示するというOVDの機能によって、LDAPベースのRBACソリューションを最大限に活用できます。

結論

Oracle Virtual Directoryは、ディレクトリの配置における最も面倒な側面を取り除くことによって、ディレクトリに対応したアプリケーションの迅速な配置を可能にします。Oracle Virtual Directoryには、複数のディレクトリから一貫性のあるデータのシングル・ビューを提供し、同期させることなくデータベースにLDAPインタフェースを提供する機能があります。

Oracle Virtual Directoryの配置と問題解決については、<http://www.oracle.com/identity> からOracle Virtual Directoryのコピーをダウンロードしてください。